

JAWLAS 通信 76

2023年7月●日発行



「アルタミラの洞窟動物画」

1879年に発見されたスペイン北部アルタミラにある洞窟には、旧石器時代のクロマニヨン人によって描かれた彩色壁画がある。

紀元前1万7000～1万3500年のものと推定され、人類の芸術活動の始まりと考えられている。

主にウマやシカ、バイソンなどの動物は赤、黄色、茶がオーカーの濃淡で表され、炭や二酸化マンガンで黒、白陶土で白が彩色されて、複雑な技法が用いられている。

目次

2023年度協会展報告	2
協会展出展目録	3
協会展写真	4～9
個展・グループ展の報告	10・11
新会員紹介	11
SALON JAWLAS	12・13
八丈航路オキノタユウ観察会報告	14・15
総会報告	16

2023年度協会展報告

昨年に引き続き目黒区民ギャラリーで、2023年度日本ワイルドライフアート協会展が、5月23日から28日まで実施されました。地方から宅配便輸送でご参加くださった皆様、搬入搬出作業・当番にご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。

初日搬入日はあいにくの雨でしたが、翌日からは天気も回復し、目黒区民センター周辺の緑も、初夏を思わせる深い緑になっていました。

今回の協会展の出展者は30名、会場での二次審査で入会が認められた青木有希さんも加え31名の参加、65点の作品が展示されました。毎回欠かさず出展されている方も、今回は不参加が数名あり、参加者が全会員の約三分の一というのは、協会展としてはちょっと寂しいようにも感じます。

今回は100号クラスの大きな作品はありません

でしたし、一人3点までとしたため比較的ゆったりとした展示になりました。G7サミットと時期が重なったせいか、残念ながら新聞での事前告知はありませんでしたが、期間を通して約350人のご来場がありました。

隣接の目黒美術館では「ベルギーと日本 光りをえがき命をかたどる」展が開催されていて、区民ギャラリーにも立寄られた方もいらっしゃる、閉館間際まで一点一点を熱心に見ている外国人のお客さんが印象的でした。

来年はJAWLAS創立30周年の記念する展示会となります。同会場でA・B両スペースで今年の倍の広さの展示も企画しています。

来年の協会展にはほぼ全会員が出展いただけますよう、運営担当者からも強くお願い申し上げます。



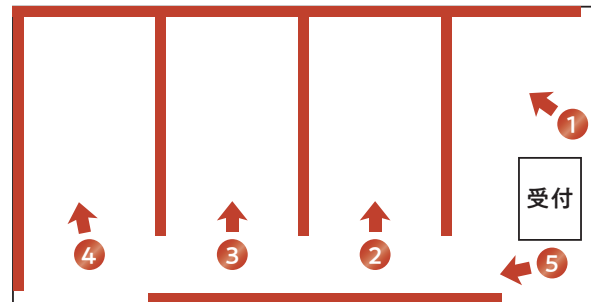
たぶき 原田 富士鷹 川崎 栗田 田村 伴 伊藤 須崎 大岡
 田中美香 青木 中島 松岡 林 小山
 藤田 和田 大室 宮武 寛 田中豊美 福原

(敬称略/最終日に撮影)

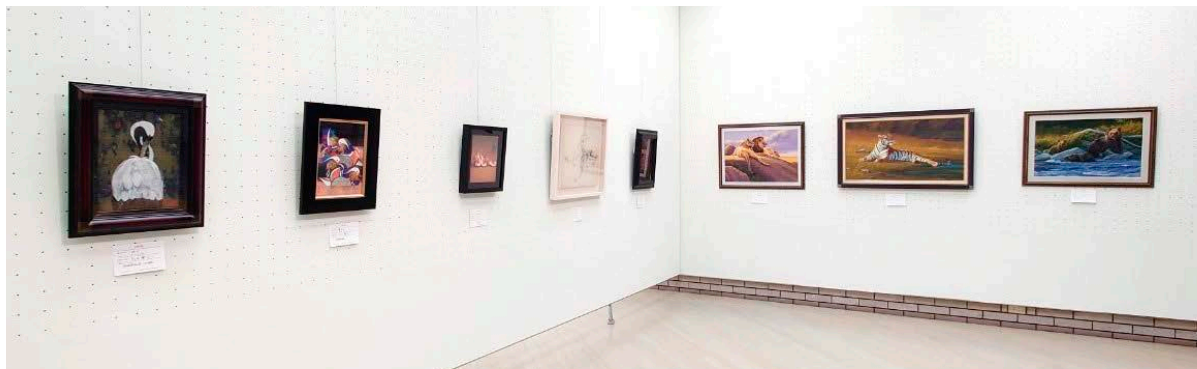
2023年日本ワイルドライフアート協会展 作品リスト

出品者	技法	作品名(生物名)
穴田美佳	ペン	オオカミ習作I (オオカミ) オオカミ習作II (オオカミ)
ATELIER*ZEPHYR 阿部久子	アクリル	PORTRAIT OF BIRDS#005 (シメ オス) PORTRAIT OF BIRDS#006 (モズ オス) PORTRAIT OF BIRDS#007 (イカル)
伊藤 真	コンテ	ヨーロッパオオカミ“周辺警戒”(ヨーロッパオオカミ) ヨーロッパオオカミ“相互確認”(ヨーロッパオオカミ)
大岡信継	油彩	森の支配者(アムールトラ)
大室 清	アクリル	クマガウ(クマガウ) タネコマドリ(タネコマドリ) ハハジマメグロ(ハハジマメグロ)
寛 守	アクリル	カモシカ(ニホンカモシカ)
川崎以和	水彩	さえざり(ホオアカ)
きらあかり	日本画	わんぱくカヤネズミ(カヤネズミ)
栗田健史	水彩	禁断の海辺BOMB DODGERS CLUB(ハジプトガラス) 禁断の海辺トーチカの銃眼から(ウミネコ セグロカモメ他) 禁断の海辺ハナハタザオの咲く丘で(シロチドリ)
小山 駿	アクリルガッシュ	渡り鳥の朝(ハチクマ) 房総の磯(クロサギ)
須崎俊哉	木彫	ツノガエルの背にヤドクガエル(アマゾンツノガエル ヤドクガエル) ホトギスにオオカマキリ(オオカマキリ) サギソウにイトトンボ(イトトンボ)
田中豊美	アクリル	涼風の一瞬(ベンガルトラ) 草原の岩場(コピエ ライオン) 初めての漁(知床のエゾヒグマ)
田中美香	ペン・透明水彩	TINY ADVENTURE(アカネズミ) 小さな春(アカネズミ) せんたくびより(アカネズミ)
たぶき正博	デジタルプリント	花鶏(アトリ) 五月の不動池(カワセミ)
田村 豊	油彩	少年時代(トラフズク幼鳥) 光りの中で(アメリカコハクチョウ)
長島 充	木版画	水辺の肖像・菱喰(ヒシクイ) 草原の番・雁金(カリガネ)
中島ひとみ	点描	AIX GALERICULATA(オシドリ) APIS CERANA(ミツバチ)
林 ゆり子	鉛筆画	変幻(エゾジカ) 冬すずめ(スズメ)
原田 篤	油彩	フォルマ・オクタ(マダコ) 惜夏抄(アオスジアゲハ) 花のゆくえ(アオスジアゲハ)
伴 義之	色鉛筆等	コアジの学校(コアジサシ) カワセミ(カワセミ)
福原勝一	手描き友禅染め	フェネック(フェネック) コウノトリ(コウノトリ) カンムリヅル(カンムリヅル)
藤田信雄	透明水彩	霧の温根沼(タンチョウ親子) 風連湖のサンセット(タンチョウ親子)
富士鷹なすび	サインペン・水彩	隊形(ハヤブサ) バーコード(ヤマシギ) 仲良し?(ダイサギ・アオサギ)
松岡 潤	透明水彩・色鉛筆	旅(ギンヤンマ)
松田蘭子	日本画	祈り(タンチョウ) 華やぎ(オシドリ)
南 善康	アクリル	お散歩(ベンガルトラ) 家族(ライオン) 招福家族(フクロウ)
宮武正則	木浮き彫り	縄張り争い(ハシプトガラス・ハシボンガラス) 縄張り宣言(キジ)
森山春樹	アクリル	渡去前のひととき(アオジ) 小春日(ミソサザイ)
山本昭生	アクリル	カナダレイクス湖の夜明け(ハクトウワシ)
和田洋一	ペーパークラフト	フクロオオカミ(フクロオオカミ) ニホンオオカミ(ニホンオオカミ)
青木有紀(新入会)	アクリル	風の通る場所(ニホンカモシカ)

搬入作業



1



2





大室清さん作品



たぶき正博さん作品



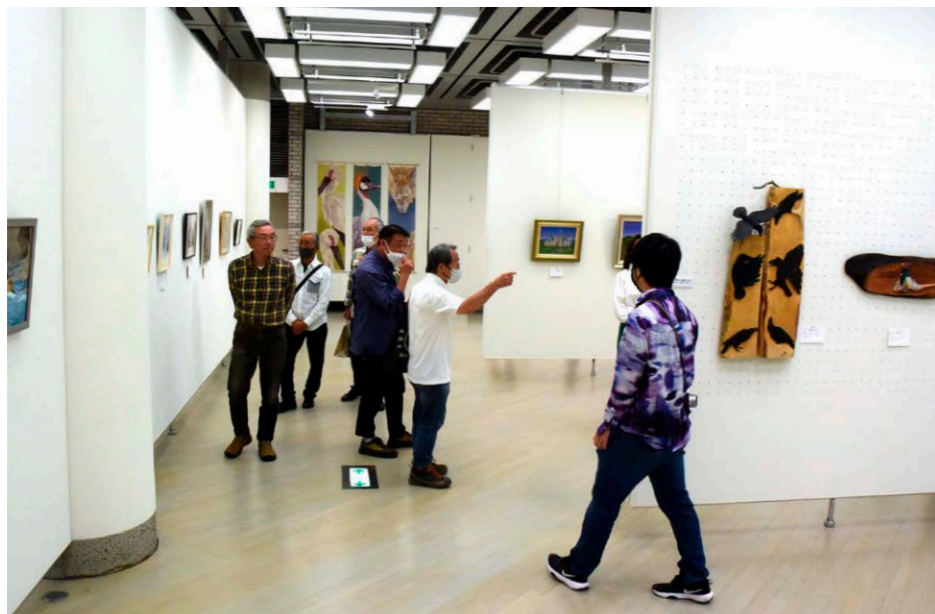
田村豊さん作品



山本昭雄生さん作品



宮武正則さん作品



3



富士鷹なすびさん作品



伊藤真さん作品



阿部久子さん作品

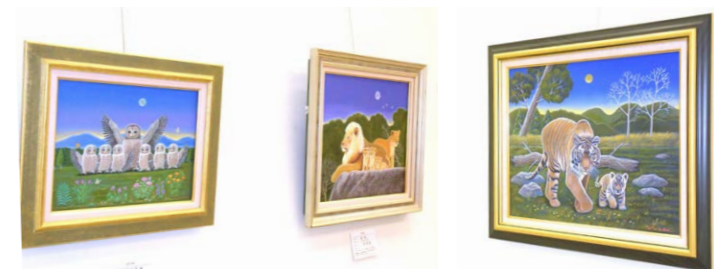
中島ひとみ作品



穴田美佳さん作品



森山春樹さん作品



南善康さん作品



長島充さん作品

大岡信継さん作品



栗田健史さん作品



須崎俊哉さん作品



和田洋一さん作品



福原勝一さん作品



伴義之さん作品



林 ゆり子さん作品



川崎以和さん作品

きらあかりさん作品



松岡潤さん作品



小山 駿さん作品



田中美香さん作品

個展・グループ展の報告

LIFE展

2023年3月5日～11日 東京交通会館1F パールルーム

武藤きすいさん、Hitomi Nakajimaさんが参加された女子のグループ展作品とたくさんのグッズ販売もあり楽しい展示でした。



春 木部一樹作品展

2023年3月13日～19日 日本橋浜町 好文画廊

木部一樹さんの春をテーマにした絵画展。鳥と草木を美しい色彩と見事な筆致に、心地良い時間が過ごせました。



水上清一さんの三つの作品展がありました



埼玉二科展

2023年5月1日～7日
埼玉県立近代美術館

木の匠展

2023年5月9日～16日
日本橋丸善



RESA展

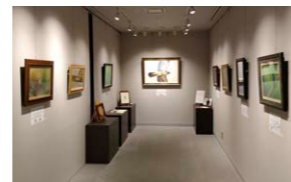
2023年5月18日～30日
二科会彫刻家たちとの展示



谷上裕二 油彩画展 -鳥とともに、自然とともに-

2023年7月12日～18日 熊本鶴屋 / 9月13日～18日 福岡三越

両箇所とも3年ぶりの開催、熊本は前回コロナの影響で開催3日目で、途中打ち切りという憂き目に会いました。今回は何事もないことを願っています。



笥守 -WILDLIFE ART-展

2023年7月14日～19日

ギャラリーアビアント(東京都墨田区吾妻橋)

自然は様々なメッセージを彼方から送ってきているはず。通り抜けてしまわぬようキャンバスに受け止めワイルドライフアートを描き続けたい。



東郷なりささん絵本原画展

2023年5月12日～7月4日 うみべのえほんやツバメ号(横須賀市津久井)

『はばたけ! パンのおにいちゃん』の原画展がありました。パンの繁殖生態を物語形式で描いた絵本で、『はりねずみともぐらのふうせんりょこう』の原画を数点、鳥の版画も飾りました。6月28日にはギャラリートークを行い、絵本の制作過程や留学のこと、イギリスの環境教育についてお話ししました。



原田篤展 -イノチノイロカタチ-

2023年2月8日～14日 そごう大宮店 美術画廊、また3月29日～4

月4日 松坂屋名古屋店 美術画廊にて原田篤さんの個展が開催。

いずれも30点強の油彩画作品が展示されました。さらに、8月8日～14日そごう横浜店 美術画廊にて次の個展が予定されています。



4人展「鼓動がきこえる」 (大自然とヒューマンの賛歌)

2023年6月2日～14日

銀座創英ギャラリーにて、内藤貞夫さん、水上清一さん、原田篤さんを含めた4人展が開催されました。



清水千佳子 ネイチャーアート展

大台ヶ原の生き物たち

2023年8月12日～10月29日

三重県立熊野古道セン

ター特別展示室

三重県尾鷲市向井12-4

0597-25-2666



新 会員紹介 青木 有紀さん

このたび、入会させていただく青木有紀(作家名:伏見ゆき)です。生まれ育ちは板橋区、現在は東京都立川市在住。子育てしながら、動物園でスケッチしたり、川の生き物を観察したりして、日々楽しんでます。狩猟や釣りが趣味の父と子どもの時から山歩きをし、様々な動物やその痕跡に出会い、野生動物が大好きになりました。オオカミが1番好きですが、鳥や昆虫、水生生物も大好きです。小学生の頃からこの協会の展示は観ていて、生物愛に溢れる作品の数々に憧れていました。皆様と交流しながら精進していけたらと存じます。



青木 有紀

SALON JAWLASは会員紹介のページで、なかなか交流の難しい首都圏以外でご活躍の方から順次ご登場していただくコーナーです。

真神 勇希 (まがみ ゆき) さん 福岡市在住

いまでこそ全国各地で様々な生物系イベントが開催されており、あらゆる生物ジャンルを網羅したアート作品も身近に感じられるようになりましたが、2005年の入会当時はまだそのような場がほとんど見あたりませんでした。日本ワイルドライフアート協会の存在を知り、とても嬉しく思いつつ入会しました。

——野生の生き物を描くようになったきっかけは？

子供の頃、まるで絵本を眺めるように楽しんでいた動物はじめ多種多様な生きもの図鑑、戸川幸夫の動物文学やシートの物語に登場する狼たちの挿絵を模写し始めたのがきっかけです。

——得意としている生き物はどんな分野の生物ですか？

ライフワークとして狼ただ1種類のみを描き、製作し続けております。日本狼・森林狼・北極狼その他様々な亜種によって体格や雰囲気が全く異なるため、とても奥深い動物だと思います。

——野生生物を描く際に、特に意識していることはどのようなことですか？

日本国内では野生の狼を観察する機会がないため、狼が飼育されている動物園に直接足を運び、ほぼ1日かけて膨大な写真を撮影。自らの手で直接得

た写真資料と、彼らに寄り添い体感できたその時々から作品を組み立てています。また動物単体のみでなく

生きる場所と1つになってこそ野生動物画だと考えているため、生息地についてかなり細かく調べたり、カラー作画の場合は特に背景色の重ね方も意識します。

——JAWLAS以外の活動を教えてください。

近年全国各地で開催され始めた生物系イベントに不定期参加、また都内近郊で開催される狼民俗学系作品展に参加しています。

——そのほかご紹介いただけるようなエピソードなどありましたら・・・

小さな子供が最初に目にする狼の姿は、絵本の「赤ずきん」や「狼と7匹の子ヤギ」で大きく怖ろしげに描かれた狼たちではないでしょうか。ただ自らの子供時代を振り返ると、動物図鑑の中でジャコウウシを狩る北極狼や動物文学の表紙に描かれた精悍な狼たちの姿の記憶が、童話の狼以上に鮮明に残っていました。パソコンを使いクリック1つで世界各国の様々な狼たちの生態写真や動画が検索できる今の時代とは異なり、入手できる情報が限られた当時は、漫画や雑誌からの切り抜きがとても大切な宝物で、図書館に並べられた沢山の動物文学の挿絵に胸躍らせワクワクしながら模写していましたが、その頃から持ち続けてきた狼の原風景的イメージは、広大な大地を風と共にどこまでも自由に駆ける姿。そして朗々



と歌う遠吠えに象徴される神秘性。また狼好きなら誰しも1度は読んだに違いないシートン動物記の代表作「狼王ロボ」から伝えられた愛情深さも、狼に惹かれる魅力の一つになりました。

そのような人生で1番最初に出会った生身の狼は、九州在住という事もあり鹿児島・平川動物公園で当時飼育されていたシベリア狼。後にその特徴が数ある亜種狼の1つであった事が判明しましたが、初めて対面した狼たちは(たまたま夏の換毛期と重なった事もあり)ほっそりしたとても優しげなまなざし

の生きものでした。数年後に訪ねた北九州の旧・到津遊園(現・到津の森公園)で出逢った森林狼は、まさに子供の頃から憧れ続けた狼そのものの姿を体現。同じ狼といえど地域亜種によって体格や雰囲気すら全く異なる姿に触れられた事実は、目の前の狼たちはその生息地と一体化した生き方をそのまま現わすという想いへと繋がっていきました。今回紹介を兼ねて掲載した狼画3点は、ふわふわのワタスゲが散りばめられた原野に横たわる若い雌の森林狼・父狼に寄り添う子狼を描いた森林狼の親子・青空を背景に佇む北極狼でしたが、それぞれペン画・水彩色鉛筆画・アクリル画の異なる作風で描いています。あ



えて表現を1つに決めず様々な方法で描き作り続けたいのは、狼ただ1種類のみをかたちにし続けるという絶対的にブレない軸があるから。そのため表現技法で変化を求めたいと思いました。諸事情でクリエイティブ方面に進む生き方が叶わなかったため私の狼表現はすべて独学ですが、ただひたすら狼が好きで好きでたまらないという想いこそが彼らをかたちづくる日々の原動力になっています。最初の狼を模写した歳から来年でちょうど50年になりますが、自分が狼を選んだようにひょっとしたら狼からも選ばれているような数多くの長きにわたる不思議な縁により、また新しい道が見えてきた今日この頃であります。



『武蔵御嶽神社大口真神式年祭』の催し。春・夏・秋3会期にわたる「想像された狼たち展」最初の展示会に真神勇希さんが参加されました。日本狼民俗学にまつわる写真展等、様々な関連イベントの1つが東京青梅市内の映画館「シネマネコ」にて上映された日本狼幻想譚「リング・ワンダリング」映画鑑賞でしたが、4月15日から5月21日までの上映期間中同館ロビー内で様々な狼表現が楽しめた展示会に引き続き、この夏7月8日に現地・武蔵御嶽神社で開催される同上作品展に、作家としての参加を予定されています。ぜひお訪ねください。

【想像された狼たち展】

2023年7月8日～8月27日 会場:武蔵御嶽神社神楽殿 開館時間:9時～16時
渋谷宮益御嶽神社の阿吽狼像・国立科学博物館の日本狼(双方とも作画展示の許可を得ました)を描いた小さな日本画。鹿児島平川動物公園の森林狼墨絵。計4点で参加しております。神社行事のため臨時へ移管する時間帯が生じる可能性があります。Facebookまたは社務所TEL0428-78-8500に確認してください。

JAWLASの協会展や会員の作品展に、いつも協力くださっている松村さんが企画主催された、野鳥観察会の寄稿をお寄せくださいました。JAWLAS会員の参加もあり、楽しい観察会になったようです。

2023年4月7・8日の二日間で、大室会長はじめ世界アルバトロスデーイベントにご出品いただくJAWLAS会員有志の皆様と、長谷川博先生をお迎えして、八丈航路オキノタユウ観察会を行いました。

※オキノタユウ(アホウドリ)

長年、鳥島で保護活動を続けられた長谷川博先生は鳥への尊厳も尊敬もない「アホウドリ」という蔑称をやめて、古く島根県の日本海側の漁師さんが使われていた「オキノタユウ(沖の大夫)」という名前に改称しようと提唱されています。

長谷川博先生は鳥島の調査には、八丈航路に乗られて八丈島から漁船で鳥島に渡られていました。長年の調査で八丈航路ではオキノタユウを見た事がないということでした。



長年の保護活動によりオキノタユウが増え、近年航路での目撃例が増えて来ています。長谷川先生自らの目で復活したオキノタユウを観察したいということで、今回の企画が実現しました。

※文中オキノタユウと表記しますが、悲しいことに正式和名はアホウドリのままです。改称されることを願ってオキノタユウを使っています。

世界アルバトロスデーについて説明させていただきます。2020年にACAP(The Agreement on the Conservation of Albatrosses and Petrels、アホウドリとミズナギドリの保護に関する協定)によって、6月19日が世界アルバトロスデーに決まりました。2023年は4年ぶりに対面での世界アルバトロスデーイベントの実施が決まりました。イベント開催日程は6月15日(木)~7月2日(日)9時~17時、最終日は15時まで東京港野鳥公園ネイチャーセンター1階展示室に於いて、世界アドバトロスデー&シーバードウィーク特別展示会が行われました。

八丈航路の旅が始まりました。4月7日(金)雨の降る竹芝客船ターミナル第1待合所にお集まりいただきました。前線と低気圧の接近で、橘丸は海況不良による条件付きで定時に竹芝棧橋を出港しました。2等和室1部屋をグループで占有、自分の場所を決めて荷物を整理して貸し毛布で寝床の準備をしました。



「よみがえる翼」大室清さん 2015年新宿御苑展DM

デッキに出てビール片手に東京湾内の夜景を楽しみながら八丈航路の旅が始まりました。自分は気にせず寝ていましたが、東京湾を出た所から揺れ始め船底を打つ波の音も聞こえ、けっこうな荒れ方で寝られなかった参加者もいたようでした。

翌朝は薄明の頃からデッキに出て観察を始めました。三宅島到着直前に海況不良により御蔵島、八丈島への欠航が決まりました。島に上陸することなく、そのまま三宅島から東京に折り返しになりました。もともと観光はせずに折り返し、航路観察が目的だったのでいいとこどりの旅になりました。しかも欠航で乗船券は払戻し、なんとタダ乗りというおまけつきでした。

三宅島周辺海域から海鳥観察を始めました。遠く水平線近く飛ぶオオミズナギドリの群れの中にひと際大きな姿を現したのはオキノタユウでした。写真で確認すると綺麗な成鳥でした。

北太平洋で見られるオキノタユウ類は、クロアシオキノタユウ(クロアシアホウドリ)とコオキノタユウ(コアホウドリ)とあわせて3種になります。

三宅島折り返しで竹芝棧橋昼過ぎの到着で、東京湾内に入ってから観察をすることが出来ました。そのおかげもあって、東京湾内でコオキノタユウを観察することが出来、旅の目的でもあるタユウ類3種コンプリート達成できたのでした。

東京湾アクアラインの風の塔辺りでは、なんとカ

ツオドリが出現して今回のオキノタユウ航路観察会に花を添えました。

無事に竹芝棧橋に帰りつき長谷川博先生に旅の総括をしていただき解散になりました。とても楽しく大満足な楽しい2日間でした。ご一緒してくださった日本ワイルドライフアート協会の皆さま、ありがとうございました。

参加者(敬称略長谷川博先生以下あいうえお順)
長谷川博、飯田直己ご夫妻、大田黒摩利ご夫妻、大室清、重原美智子、嶋村早樹、つぐみ、奴賀俊光、富士鷹なすび、松村雅行 12名
今回の航路観察会での観察種

コオキノタユウ1羽(復路東京湾内)、クロアシオキノタユウ17羽、オキノタユウ10羽、オオミズナギドリ多数、カツオドリ1羽(復路東京湾内)、ヒメウ、カワウ、ウミウ、アマツバメ、ユリカモメ、ウミネコ、シロハラトウゾクカモメ、カンムリウミスズメ、ツバメ、ヒヨドリの15種でした。



世界アルバトロスデー 展示

東京港野鳥公園ネイチャーセンターで、松村さんが企画プロデュースされたオキノタユウ作品展示コーナーが、6月15日~7月2日まで設置されました。出展者は大室清さん、重原美智子さん、つぐみさん、長島充さん、富士鷹なすびさんでした。会員作家以外に図鑑画家の谷口高司氏、イラストレーター森上義孝氏、ワイルドライフ・フォトグラファーの中村恵美氏の鳥島での保護活動紹介写真パネルが展示されました。記念撮影スポットに実物大のオキノタユウのタペストリーが掛けられ、長谷川博先生が鳥島で続けられたオキノタユウ保護活動についてのデータや鳥島で長谷川先生が撮影された写真、多くの海鳥が影響を受けている漁業混獲についての展示などがありました。



<松村さん談> JAWLAS協会展や会員個展などでオキノタユウ作品を見つけた時に、今回の展示にご協力いただけるようお願いして展示作品を集めました。出品会員作家 航路探鳥会での取材から新作を創って下さり感謝申し上げます。